

# 江筋と水道

お米を作る際に大切なものは「水」です。

この水を河川から引き込んで、遠く離れた水田に届ける役目をしている水路のうち、次にご紹介する水路は、いわき地方で古くから「江筋(えすじ)」と言われてきました。

皆さんは、市内北部にある平浄水場と上野原浄水場にどうやって河川の水が届くのかをご存知ですか？  
実は、この江筋を通して浄水場まで水が届いているのです。

現在、江筋は、水田のためだけでなく水道にとっても大変重要な施設であり、欠かせないものとなっています。

## ◆小川江筋 (水源：夏井川)

江戸時代初期に磐城平藩の郡奉行をしていた澤村勘兵衛の尽力により、寛文5年(1665年)に完成した水路です。

全長は、小川町関場にある取水口から四倉町に至るまでの約30キロメートルにおよび、主に夏井川から北側の水田を潤しています。

水路によって運ばれてきた水は、平浄水場の北側(平下平窪寺前)で分岐して浄水場へ流れ込んでいます。



取水口(小川町関場)

## ◆愛谷江筋 (水源：夏井川)

小川江筋完成後、澤村勘兵衛の意志を受け継いだ三森治右衛門が延宝7年(1679年)に完成させた水路です。

全長は、赤井字大作場の取水口から平下高久に至るまでの約18キロメートルにおよび、主に夏井川から南側の水田を潤しています。

愛谷頭首工の貯水機能により、その上流に位置する平浄水場のもうひとつの取水口である下平窪取水場では、常に安定した水量を取水することができます。



愛谷頭首工(赤井字大作場)

## ◆大滝江筋 (水源：好間川)

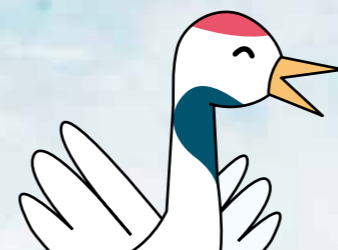
応永14年(1407年)、岩城氏が大館(好間町下好間字大館)に城を築き始めたのを機に、城内用水として開削された水路であり、市内において飲料を目的とした水路としては初めてのものになります。

廃城後は、江戸時代の延宝年間(1673年～81年)に、上野原(好間町上好間字上野原)の水田開発のために利用されました。

好間川の右岸に設置された取水口(好間町上好間字東唐松)から延びる水路は、約4.8キロメートルにおよびます。途中、導水管により分岐して上野原浄水場へ流れ込んでいます。

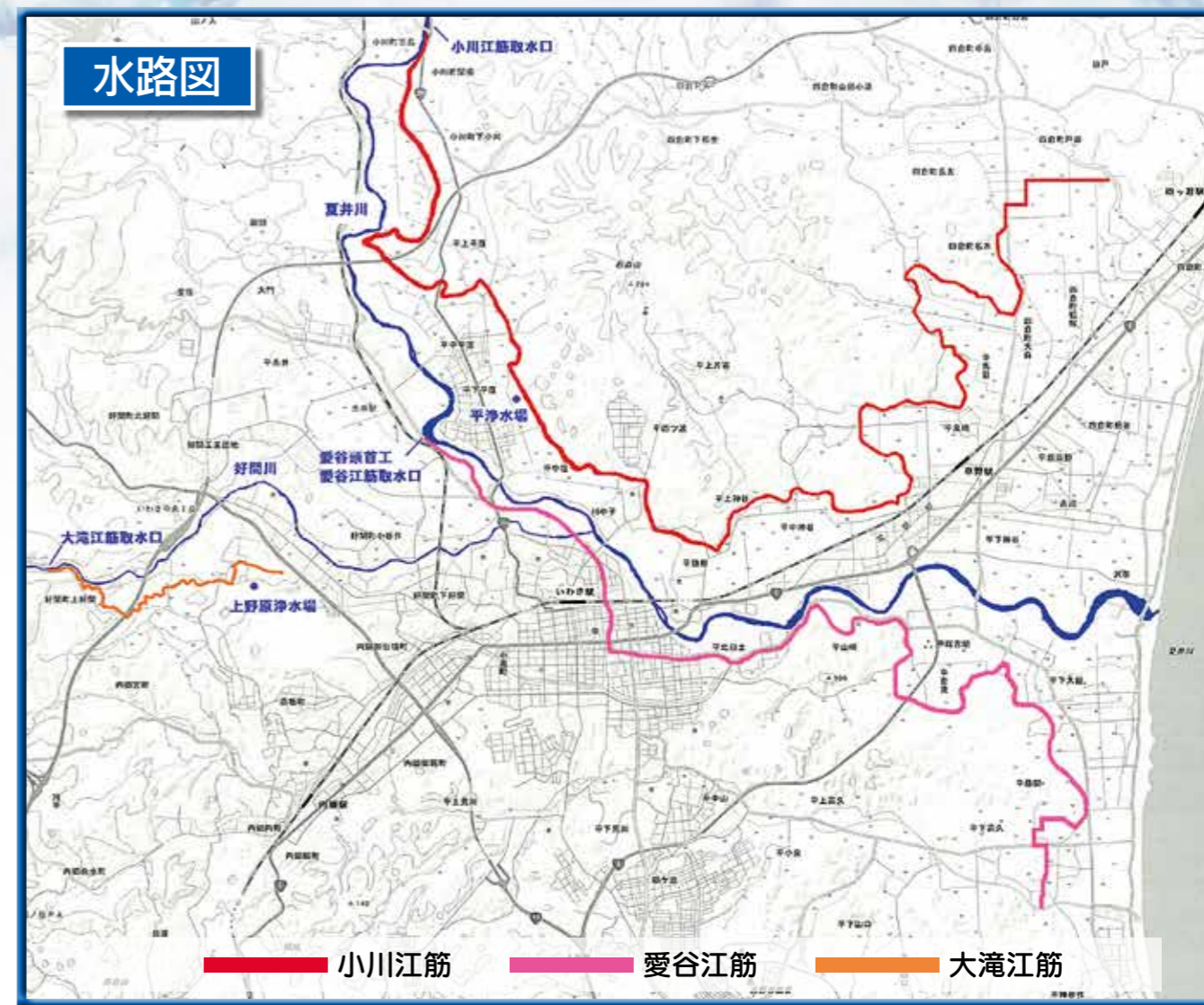


取水口(上好間字東唐松)



江筋は、土地改良区や水利組合によって昼夜を問わず維持管理されているんだよ。  
そのおかげで、常に水道水をつくることのできるんだね!

そうなんだ!  
じゃあ、江筋を汚さないように協力しなければいけないね!



出典：国土地理院ホームページ(<http://www.gsi.go.jp/>)  
・地理院地図データをもとにいわき市水道局が作成

## ゴミや生活排水の混入防止にご協力ください



実際に江筋内へ投棄されたゴミ



○お問い合わせ 浄水課庶務係 TEL.22-9319